

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : University of Toronto (English Language Program)

留学期間 : 平成 28 年 4 月 4 日 ~ 平成 29 年 3 月 2 日

私は留学する前から環境には恵まれており、大学で知り合った留学生や、旅行先で知り合った友達と話すなど、英語を使うことはできた。彼らは私のごちない英語にも耳を傾けてくれて、コミュニケーションをとることができていた。そのせいもあって、私の英語はそこまで悪く無いのではないかと思っていた。しかし、留学の成果を帰って来たときに目に見える形にしたいと TOEIC を出発前に受けたのだが、結果は散々だった。本気で勉強して身につけなければ、英語を使って日本だけにとどまることなく働きたい、ということは叶わないという現実を突きつけられた。だが、出発前に不安は全くと言っていいほど無かった。やってやる、絶対に周りを驚かせてやる、というくらい意気込んでいたし、海外へ 1 人で行くことも初めてではなかったため、抵抗も無かった。だから、私は希望と楽しみに満ち溢れていた。そういった心意気で迎えた留学スタートだが、最初からつまずいた。レベル分けテストでは、最上級レベルを目指していたのに、二つ下の中級クラスに入るようになった。クラス編成も、私は多くの国の生徒が混ざっている多国籍なクラスをイメージしていたが、全く違った。8 割が日本人だったのだ。それでも私は日本語を授業中はもちろんのこと、授業外でも日本語はほとんど使わなかった。他の日本人も同じように日本語はほぼ使っていなかったし、そういう環境のおかげもあったと思う。授業はアカデミックイングリッシュというコース名だけあり、人類学や考古学、心理学などの本当にアカデミックな題材ばかりで、英語以外にも学ぶことが多く、それに対するディスカッションをすることもあり、楽しく知識を増やしながら英語を身につけて行くことができた。自分でも一学期終わるごとに成長を感じることができたし、周りの人にも上手くなった、自信がついたね、と言ってもらえるようになり、それが嬉しくまた頑張れた。

しかし、全てが順調に進んでいた訳ではない。二学期目のプロジェクトのプレゼンテーション後、先生からのフィードバックで、声の小ささもあるが、発音の悪さが意味を理解することの邪魔をしていると言われた。これまでほとんどの人に褒められてだけいたため、これは本当にショックだったし、自信も無くした。しかし、それまで接していた人たちの多くにとって英語は第二言語であり、外国語習得の難しさを知っているからこそ、そもそも褒めてくれるハードルが低かったのでは。ネイティブスピーカーにとってはまだまだだったのではないか。そう考えてみると、奮い立たせられたし、次のステップに進んだんだ、と甘えていた自分に喝を入れるきっかけにもなった。あえてそういう厳しい言葉をかけてくれた先生には感謝している。プレゼンテーション大会で 1 位を取ったこともとても嬉しく印象に残っているが、この出来事の方が私の頭には鮮明に残っている。

留学をしたことによって、語学は本当に伸びたと自分でも自覚している。例えば、留学の最初の頃は Ted のシャドーイングはおろか、リスニングも英語字幕が無いと難しかった。だが今ではスクリプト無しでもシャドーイングができるようになったし、一つの目標でもあった映画を字幕無しで楽しめるようになることも、100%では無いが、80%位は達成できているのでは無いかと自負している。語学だけでなく多くのことを

見直すきっかけにもなった。自分の未熟さに気づくことができたし、自分から進んで様々な機会を探していくなど積極的に行動するようになったと思う。また、友達の大切さを改めて思い知った、というのも、11月頃にとても孤独に感じ、何をしても楽しくないと感じる時期があった。恐らくそのときにクラスでの人間関係や、バイト先でのことなど、上手くいかないことがどっと押し寄せてきたことなどが原因で心が疲れてしまっていたのだと思う。しかし、そんなときにトロントにいる友達、日本にいる友達を問わず、誰もが私の話を聞いてくれたり、何らかの方法で助けてくれた。そのおかげでその時期を抜けることが出来、また今のように前向きに物事を考え、毎日を楽しむ過ごしていけるようになった。

今後はまず、せっかく培った英語力を落とさないよう英語のニュースを読んだり、英語を使うバイトに就くなど何らかの方法で使い続けて行くこと。友達の大切さに気づいたのだから、今回の留学でできた友達とは定期的に連絡を取り、日本の友達には普段から感謝の意も示していくこと。留学先で身につけた行動力を活かして、新たな出会いの機会を求め、日本でも自分から積極的に動いていくこと。大きく分けてこの3つを軸に、新たな知見を身につけて、人間としての魅力を上げていきたい。留学中に会った1人の女の子が勉強、運動、ボランティアと何事にも一生懸命に取り組む努力家で、且つ、それを鼻にかけないとてもフレンドリーで笑顔も素敵だった。私はとても1人の人間として魅力的だと思ったし、そんな人間になりたいと強く思う。目標はそんな私を見て誰かに、私のようになりたいたいと思ってもらうことだ。今回の留学は語学留学ではあったが、語学だけでない、本当にいろんなことを見て聞いて感じて、経験できた。人生の中でもまたとない、言葉通り素晴らしい経験になった。これをただの経験として殺してしまわずに、先にあげたことを意識するなどして、活かしていきたい。

これから留学するという人に伝えておきたいことは、何かをしても、してなくても月日はすぐに過ぎて行ってしまって取り返せないということ。もし、お金が足りない、勇気が出ない、と留まっているのならば、一歩踏み出すことをお勧めする。その先で経験できることは絶対に日本ではできないものばかりであるし、その経験は一生の思い出になると私は思う。それをできるチャンスが今目の前にあって、それをみすみす逃すのはあまりにももったいないと思うのだ。私は多くのお金と時間をつぎ込み、周りの人の協力もあり留学にやっといけたが、全く行ったことに対して後悔はない。むしろ、今回たくさんの反省点が出てきたために再挑戦したいと思うほどだ。皆さんの健闘を祈ります。